



管内経済情勢報告

～中国地方の経済情勢について～

令和8年4月22日
財務省 中国財務局

【お問い合わせ先】
中国財務局経済調査課
電話 (082) 221-9221

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	→

（注）8年4月判断は、前回8年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、化学などが減少しているものの、輸送機械が増加しており、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	→

設備投資	7年度は前年度を上回る見込み	7年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	7年度は減益見込み	7年度は増益見込み	↗
企業の景況感	「上昇」超に転じている	「下降」超に転じている	↘
住宅建設	前年を下回る	前年を上回る	↗
輸出	前年を上回る	前年を下回る	↘

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

業態別にみると、ホームセンター販売は、例年より気温が高かったことからストーブなどの冬物商材が不調で、前年を下回っている。スーパー販売は、時短志向のトレンドから味付け済みの半調理品などが好調で、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、節約志向が継続する中、米飯類の代替としてパンや麺類などが好調で、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、節約志向が継続する中、お得感のある大容量の衣料用洗剤などが好調で、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、新車価格が上昇している中、買い替え時期を先延ばしする傾向がみられ、前年を下回っている。このように、個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 例年より気温が高かったため、ストーブや電気カーペットなどの暖房商品を中心とした冬物商材の販売が不調だった。（ホームセンター）
- 時短を求めるトレンドが続いており、調理に手間がかからない味付け済みの半調理品が好調だった。また、ハレの日需要を背景に節分の恵方巻が好調で、一本巻より価格が手頃なハーフ巻が好まれた。（スーパー）
- 節約志向が継続する中、米飯類の価格上昇を受けてパンや麺類へのシフトがみられており、特に価格の面でも買い求めやすいカップ麺の売上が伸びている。（コンビニエンスストア）
- 節約志向が継続する中、引き続きお得感のある大容量の衣料用洗剤が好調だった。消費者の価格への感度は高くなっており、食料品や日用品を中心に、セールやポイント付与など販売促進施策への反応が強くなっている。（ドラッグストア）
- 新車価格の上昇を受け、修理による対応を優先するなど、買い替え時期を先延ばしする傾向がみられる。（自動車販売）
- 地震や大雪などで一時的に客数の減少はみられたものの、客室単価の上昇による客離れもみられず、観光需要は引き続き高水準で推移している。（宿泊業）

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械は、新型車効果のほか、海外向けで一部車種の需要が堅調であることなどから、増加している。化学は、国内外で住宅資材向けなどの需要が低調であることなどから、減少している。汎用・業務用・生産用機械、電気機械は、EV 向けの需要が低調であることなどから、減少している。鉄鋼は、建材向けの需要が低調であることなどから、減少している。このように、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

- 新型車効果のほか、欧州市場において一部車種の需要が堅調に推移していることから、生産量が増加している。なお、3月以降、中東向けの出荷を見合わせている。（輸送機械）
- 国内での建設需要の低迷に加え、中国で不動産市況が低調に推移しており、住宅資材向けの需要が低調であることから、生産量が減少している。また、中東情勢の影響を受け、今後の生産への影響を懸念している。（化学）
- EV 市場の低迷を背景に、EV 部品向け工作機械などの受注が低調であることから、生産量が減少している。（生産用機械）
- EV 市場の低迷を背景に、EV 向けパワー半導体の受注が伸び悩んでいることから、生産量が減少している。（電気機械）
- 人手不足や建設コストの上昇などを背景に建設需要の低迷が続いており、建材向け鋼材の需要が低調なことから、生産量が減少している。（鉄鋼）

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率は、緩やかに低下しているほか、新規求人数は、前年を下回っている。一方、法人企業景気予測調査（8年1-3月期）の従業員数判断 BSI でみると、製造業・非製造業いずれにおいても前期に比べて「不足気味」超幅は拡大しており、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 省人・省力化投資の進展に加え、民間職業紹介サービスの活用や自社ホームページでの直接募集など求人手法の多様化を背景に、求人数は減少傾向が続いているものの、依然として求人が求職を上回って推移している。また、少子高齢化の進行により働き手が不足していることなどから、求人への充足が進まず、人手不足の声が引き続き多く聞かれる状況にある。（人材・職業紹介）
- 他社においても業績好調に伴う人員需要の高まりが見受けられ、地域における人材確保競争が激化しているなか、当社も堅調な需要に対応するため、高コストにはなるものの、県外から外国人派遣労働者などを確保する方針である。（電気機械）
- 新規出店を進めるなか、求人募集を行っても応募は少なく、人手不足が続いているため、賃上げやパート・アルバイトの正社員登用などの待遇改善を進めている。また、棚卸作業の外注や営業支援端末の改良などにより、少ない人員で店舗運営ができるように取り組んでいる。（小売業）

■ 設備投資 「7年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 製造業では、「生産用機械」などで減少するものの、「情報通信機械」、「化学」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、「金融・保険」、「小売」などで増加するものの、「電気・ガス・水道」、「運輸・郵便」などで減少することから、全体では前年度を下回る見込みとなっている。

- 中長期的な需要の増加を見込み、新工場建設などの生産能力増強のための設備投資を実施している。(情報通信機械)
- 前年度の発電関連の大型設備投資の反動により、減少している。(電気・ガス・水道)

■ 企業収益 「7年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 製造業では、「情報通信機械」、「電気機械」などで減益となるものの、「生産用機械」、「その他製造」などで増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業(除く「電気・ガス・水道」、「金融・保険」)では、「小売」などで減益となるものの、「学研究・専門・技術サービス」、「運輸・郵便」などで増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超に転じている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 企業の景況判断BSIは、「下降」超に転じている。なお、先行きは「上昇」と「下降」が拮抗する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回る」

- 新設住宅着工戸数でみると、貸家、持家が減少しているものの、分譲住宅、給与住宅が増加していることから、前年を上回っている。

■ 輸出 「前年を下回る」

- 輸出(円ベース)は、自動車などが増加しているものの、船舶、一般機械などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、西欧などで増加しているものの、中南米などで減少している。
なお、輸入(円ベース)は、原油及び粗油、石油製品などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、中東などで減少している。

3. 各県の総括判断

	前回(8年1月判断)	今回(8年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
広島県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
鳥取県	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、弱含んでいる。
島根県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、横ばいの状況にある。
岡山県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、改善に向けた動きに一服感がみられる。
山口県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

管内経済情勢報告

(令和8年4月22日)

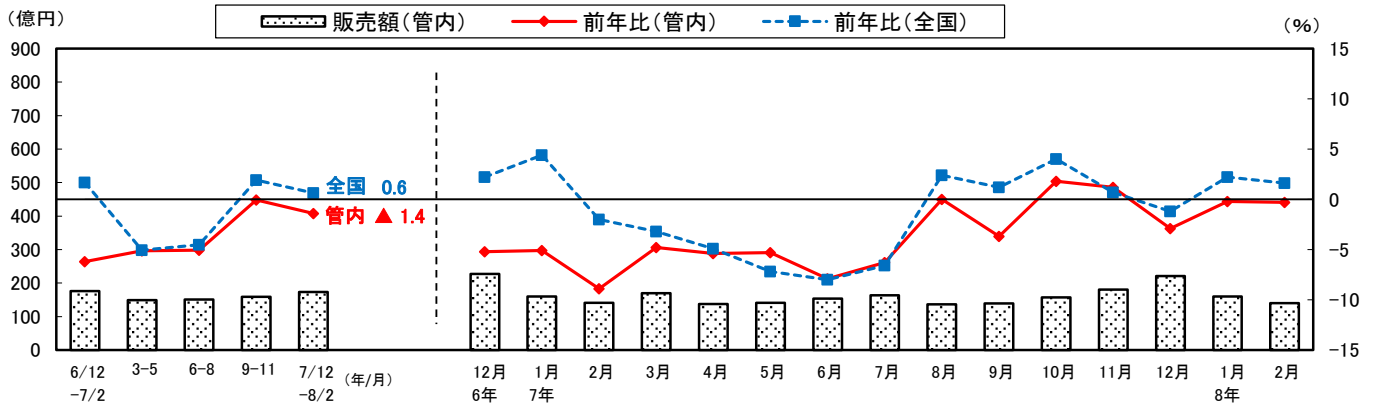
資料編

	目次	ページ
1.	個人消費	1
2.	生産活動	3
3.	雇用情勢	4
4.	設備投資	5
5.	企業収益	5
6.	企業の景況感	6
7.	住宅建設	6
8.	輸出	7

1. 個人消費 一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある

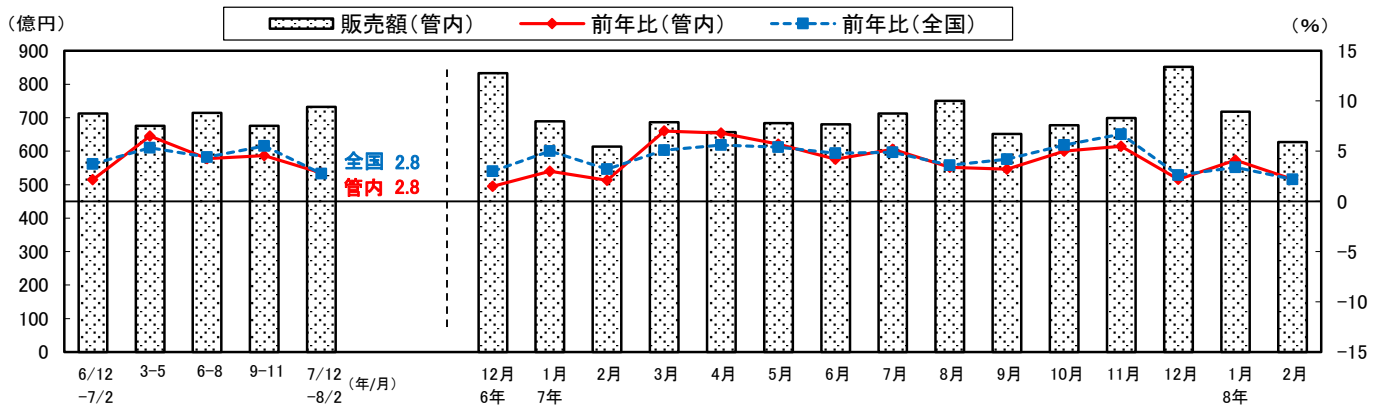
(1) 百貨店販売額(全店舗)

(注) (1)~(6)の各グラフの3か月毎の販売額は、1月あたりの平均を表示



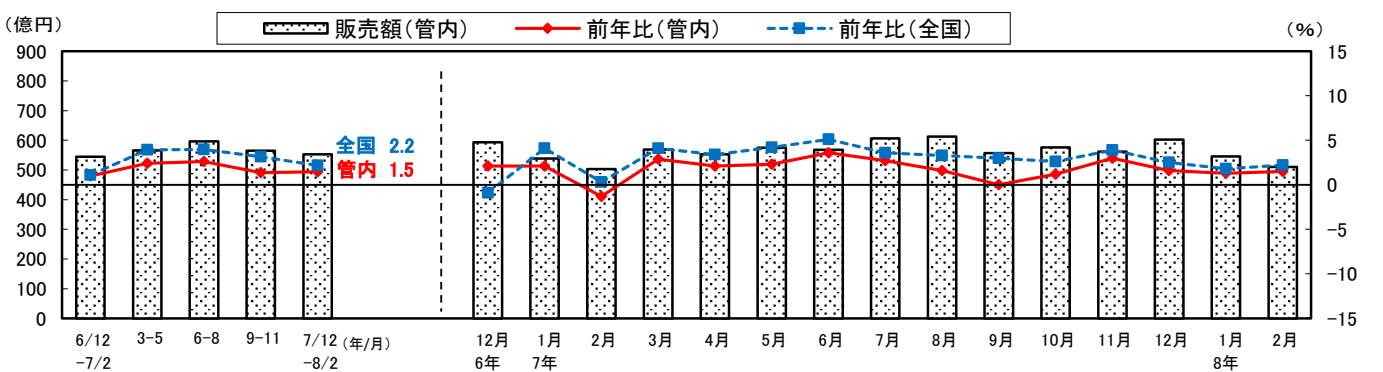
(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(2) スーパー販売額(全店舗)



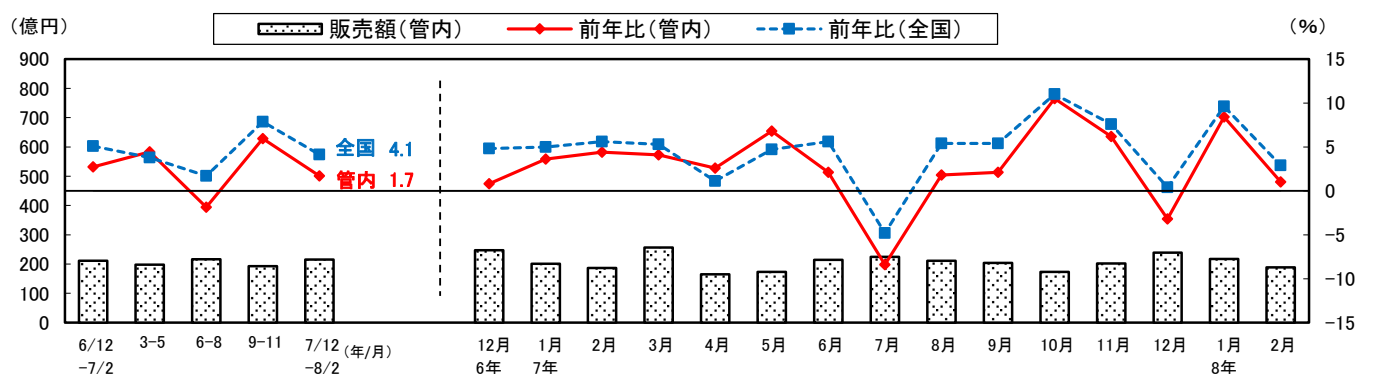
(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(3) コンビニエンスストア販売額(全店舗)



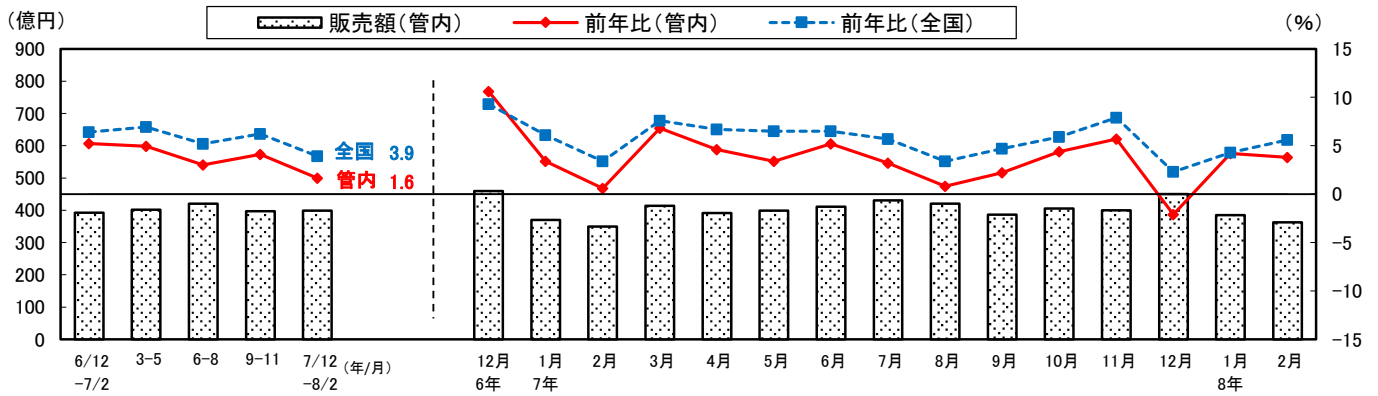
(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(4) 家電大型専門店販売額(全店舗)

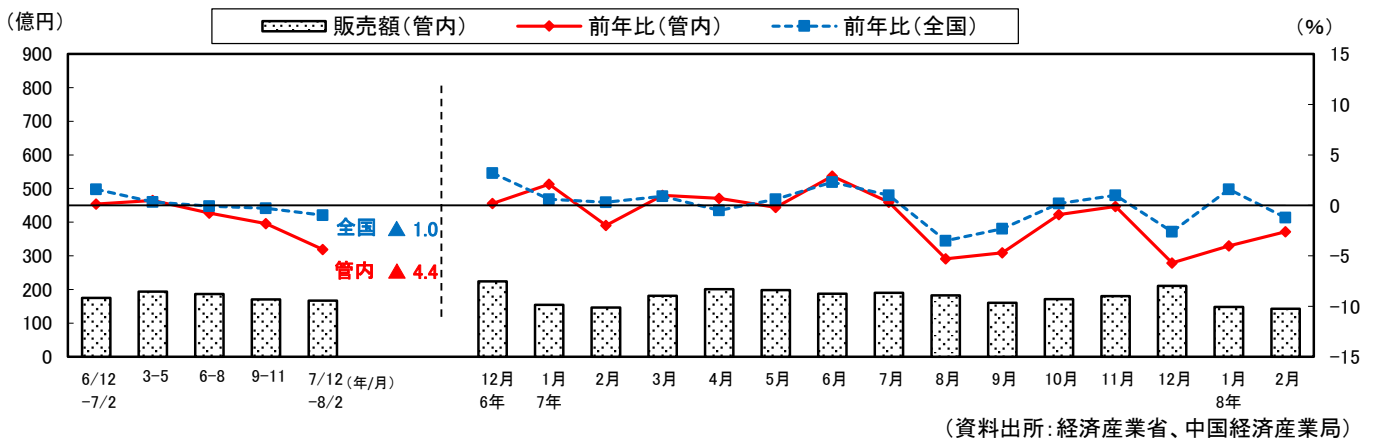


(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

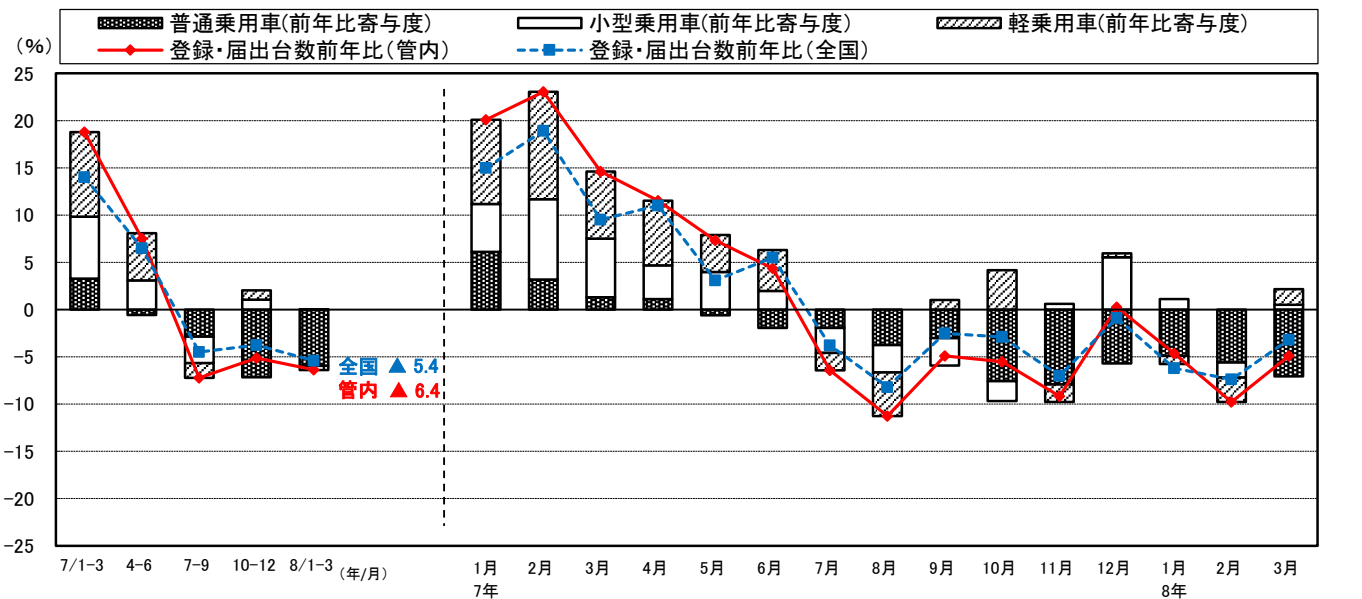
(5) ドラッグストア販売額(全店舗)



(6) ホームセンター販売額(全店舗)



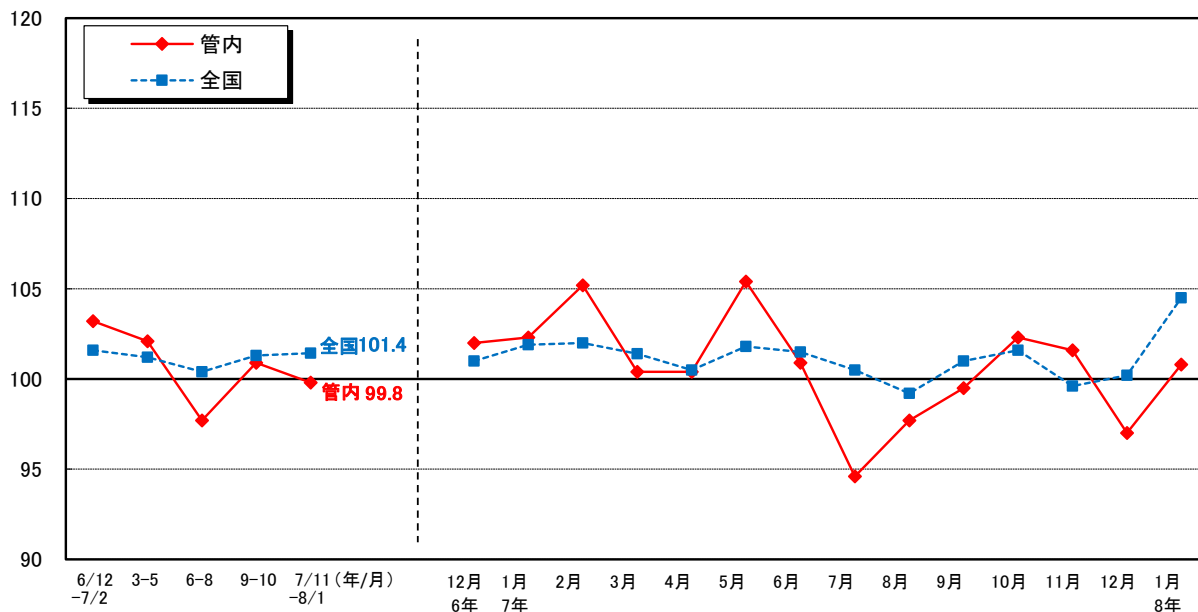
(7) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



2. 生産活動 緩やかに持ち直しつつある

(1) 鉱工業生産指数(季節調整値)

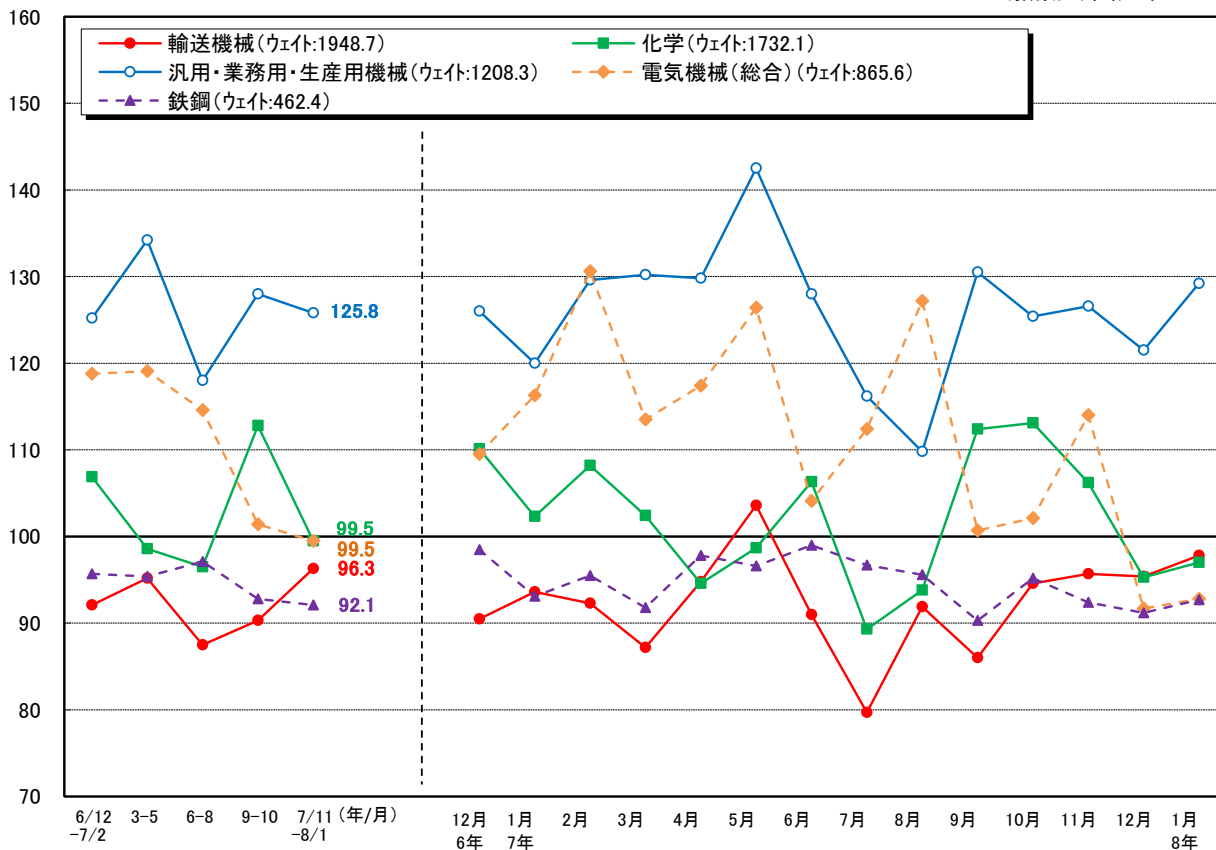
(指数) (令和2年=100)



(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(2) 管内主要業種別生産指数(季節調整値)

(指数) (令和2年=100)

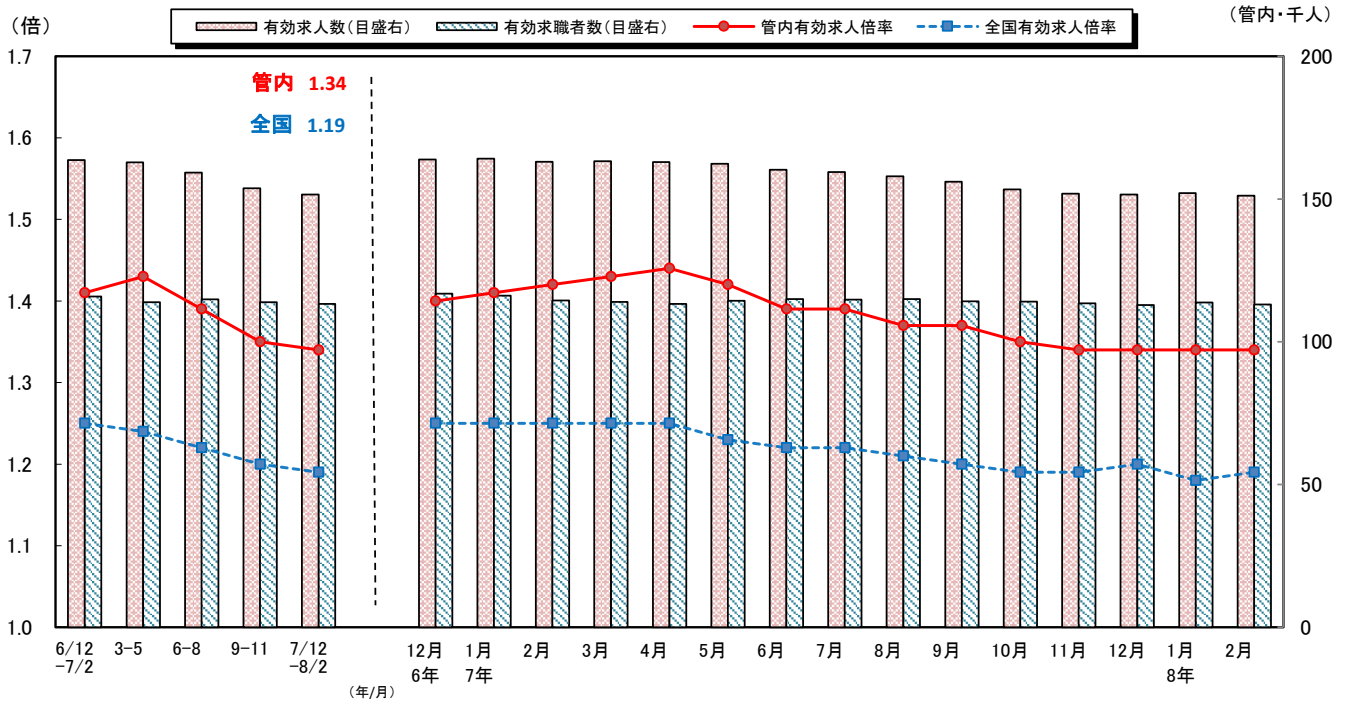


(資料出所: 中国経済産業局)

3. 雇用情勢 緩やかに改善しつつある

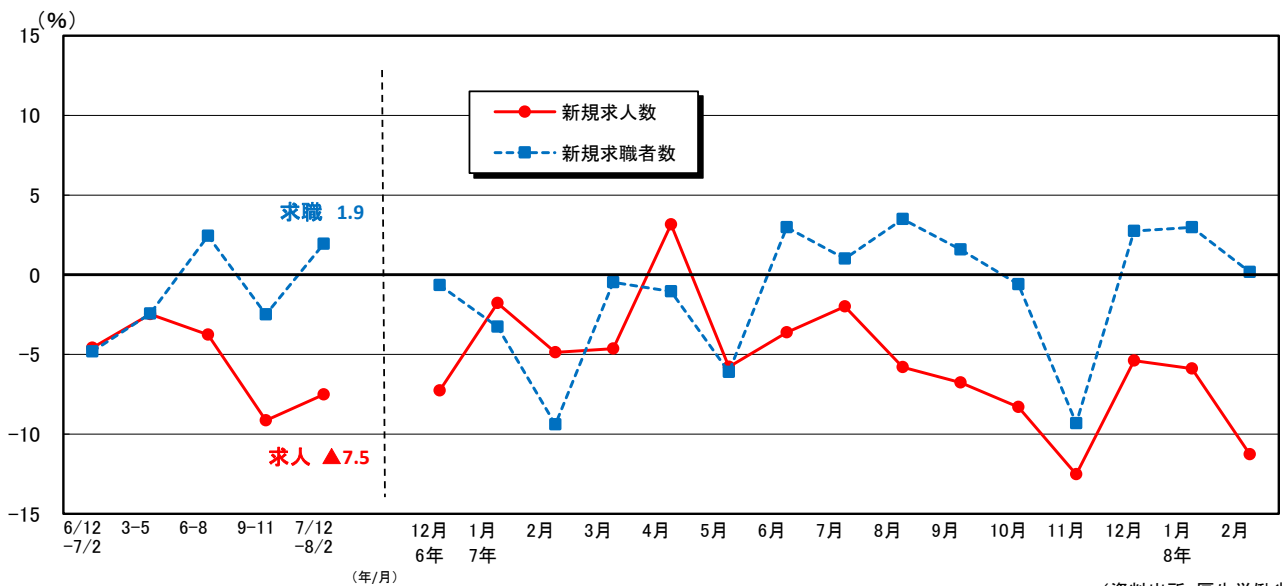
(1) 有効求人倍率、有効求人・求職者数(学卒を除く、季節調整値)

(注)(1)のグラフの3か月毎の有効求人人数と有効求職者数は、1月あたりの平均。



(資料出所:厚生労働省)

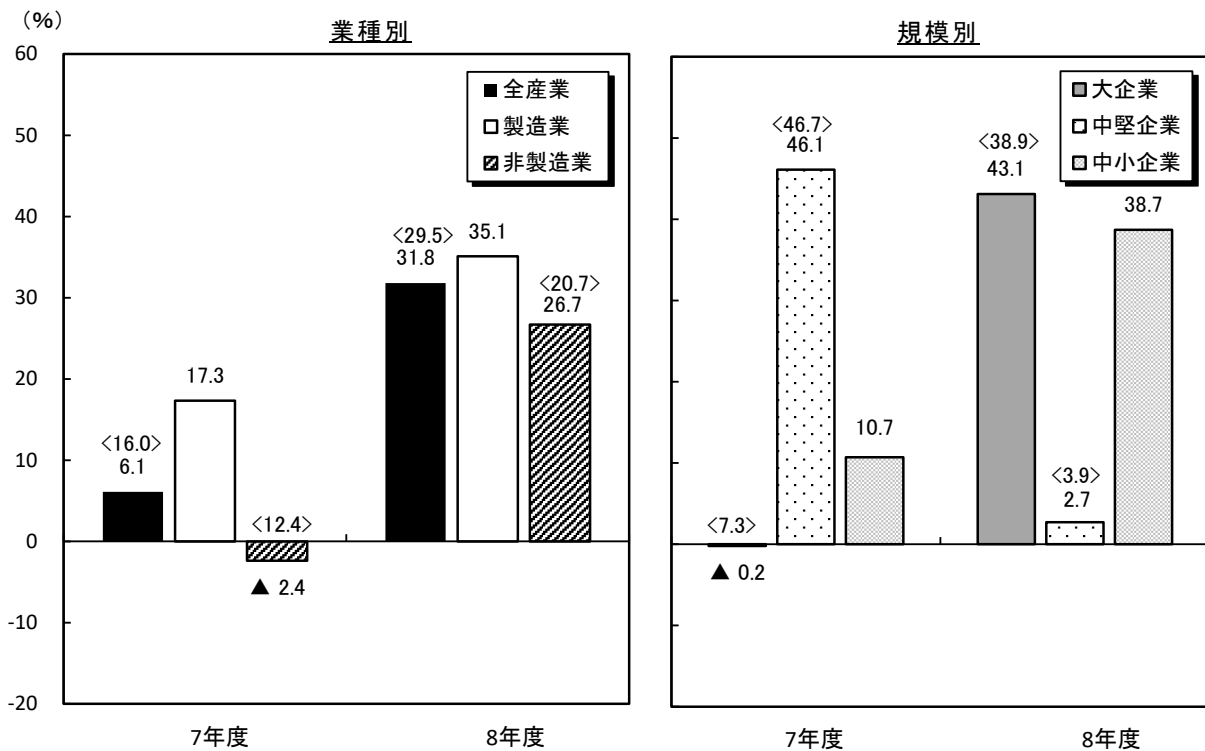
(2) 管内新規求人・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



(資料出所:厚生労働省)

4. 設備投資 7年度は前年度を上回る見込み

設備投資額(前年度比)

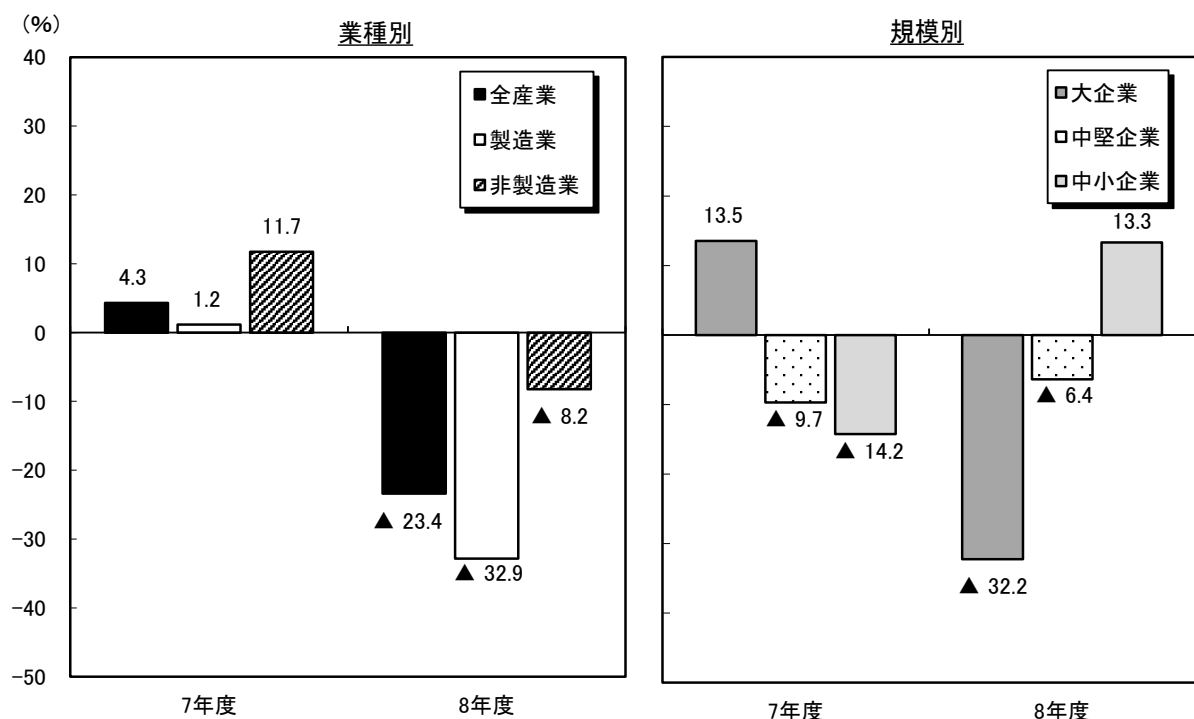


< >書きは電気・ガス・水道を除く前年度比

(資料出所: 中国財務局)

5. 企業収益 7年度は増益見込み

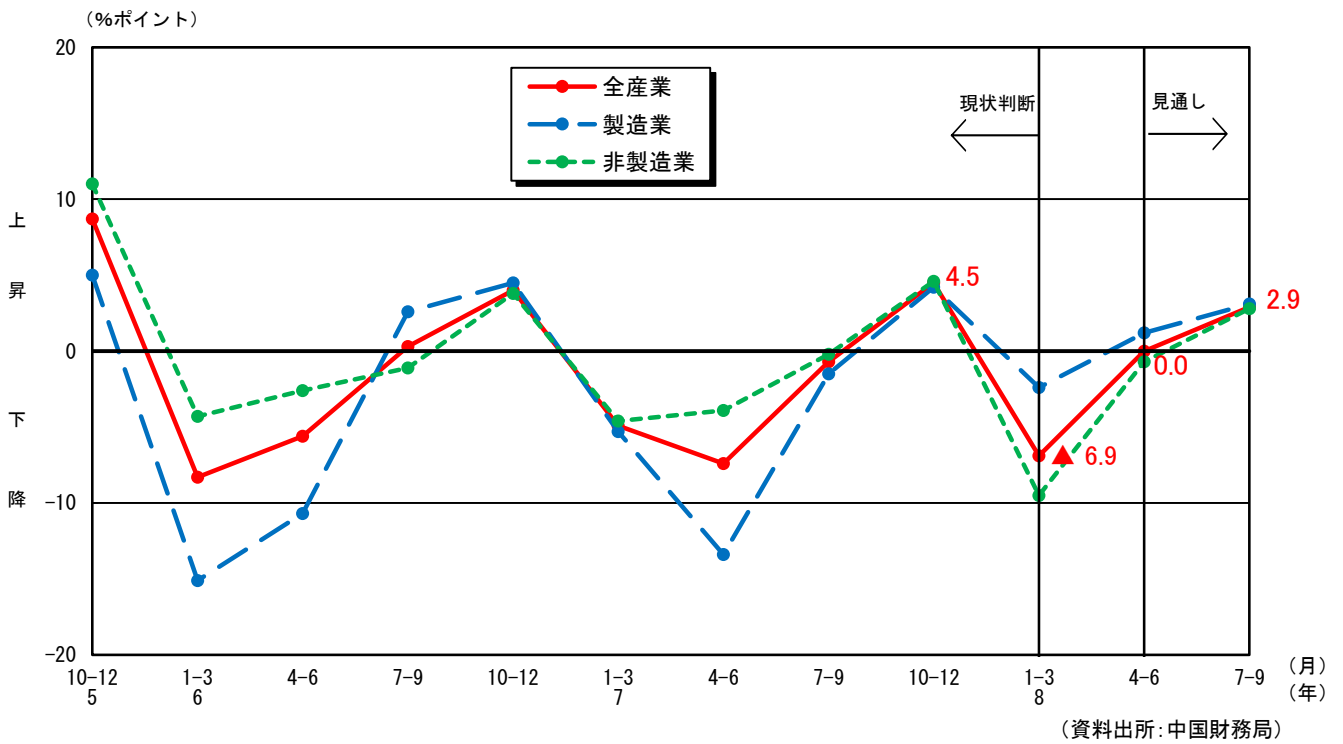
経常利益(電気・ガス・水道、金融・保険を除く: 前年度比)



(資料出所: 中国財務局)

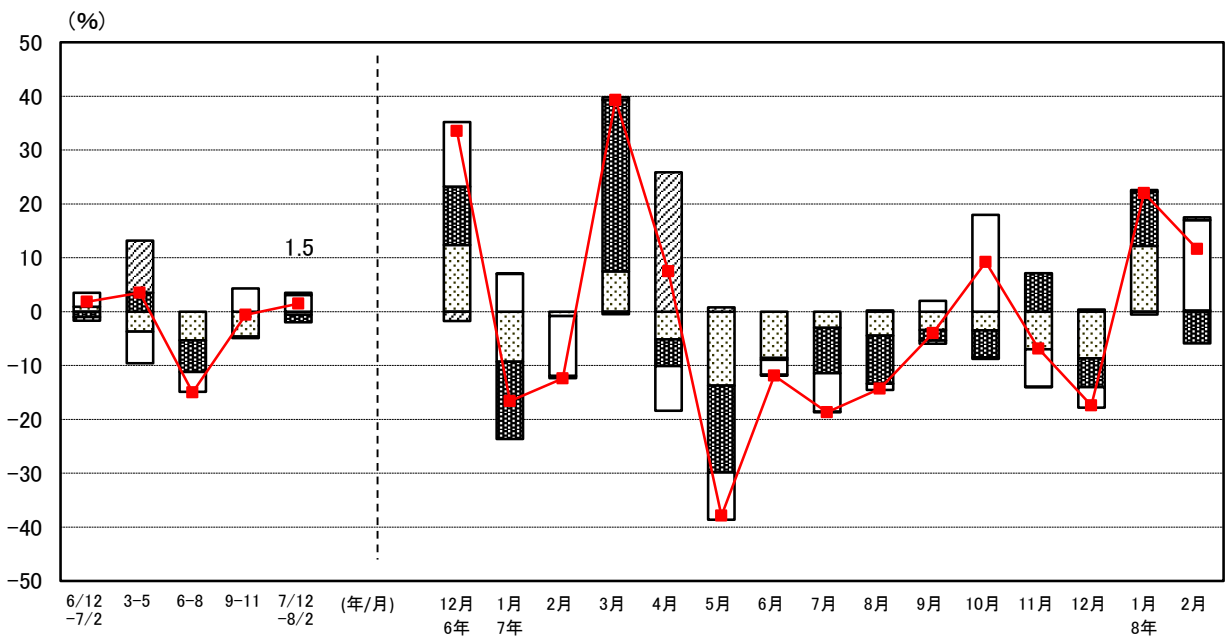
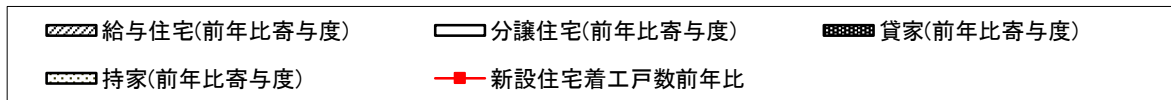
6. 企業の景況感 「下降」超に転じている

景況判断BSIの推移(原数値) (BSI: 前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)



7. 住宅建設 前年を上回る

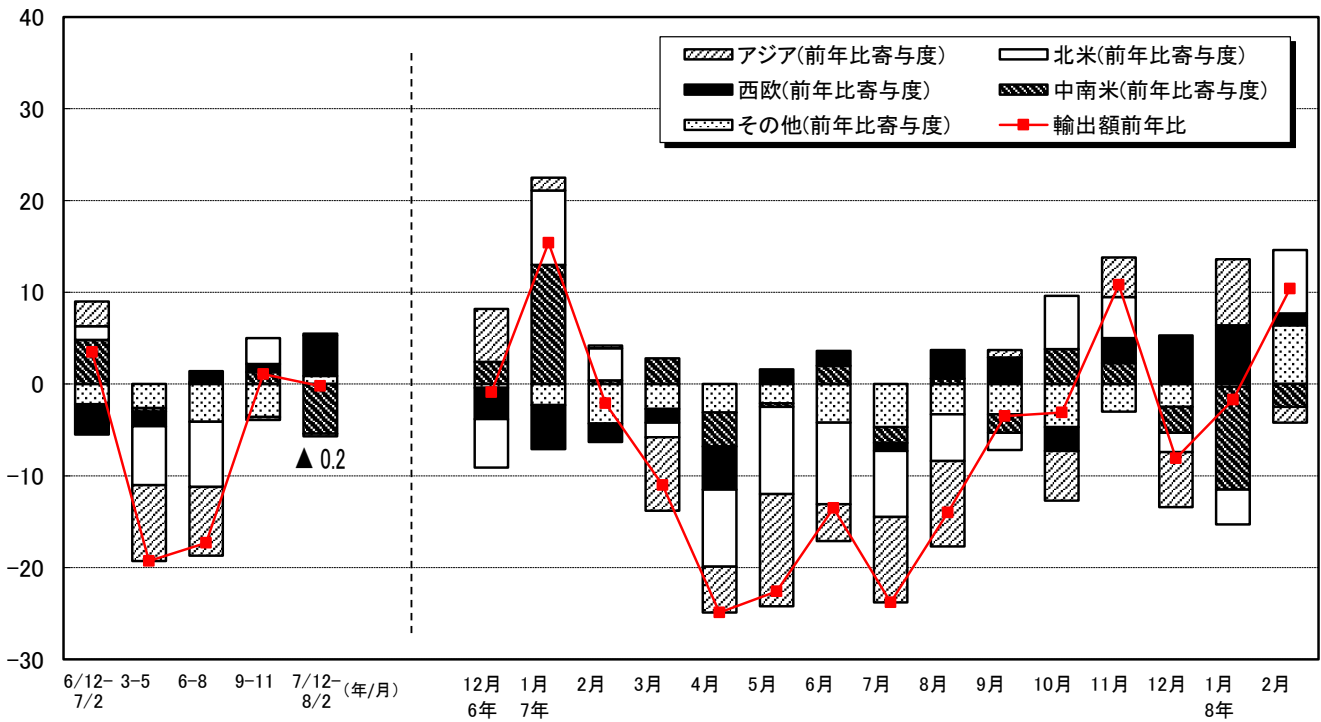
新設住宅着工戸数(前年比)



8. 輸出 前年を下回る

輸出(円ベース)

(%)

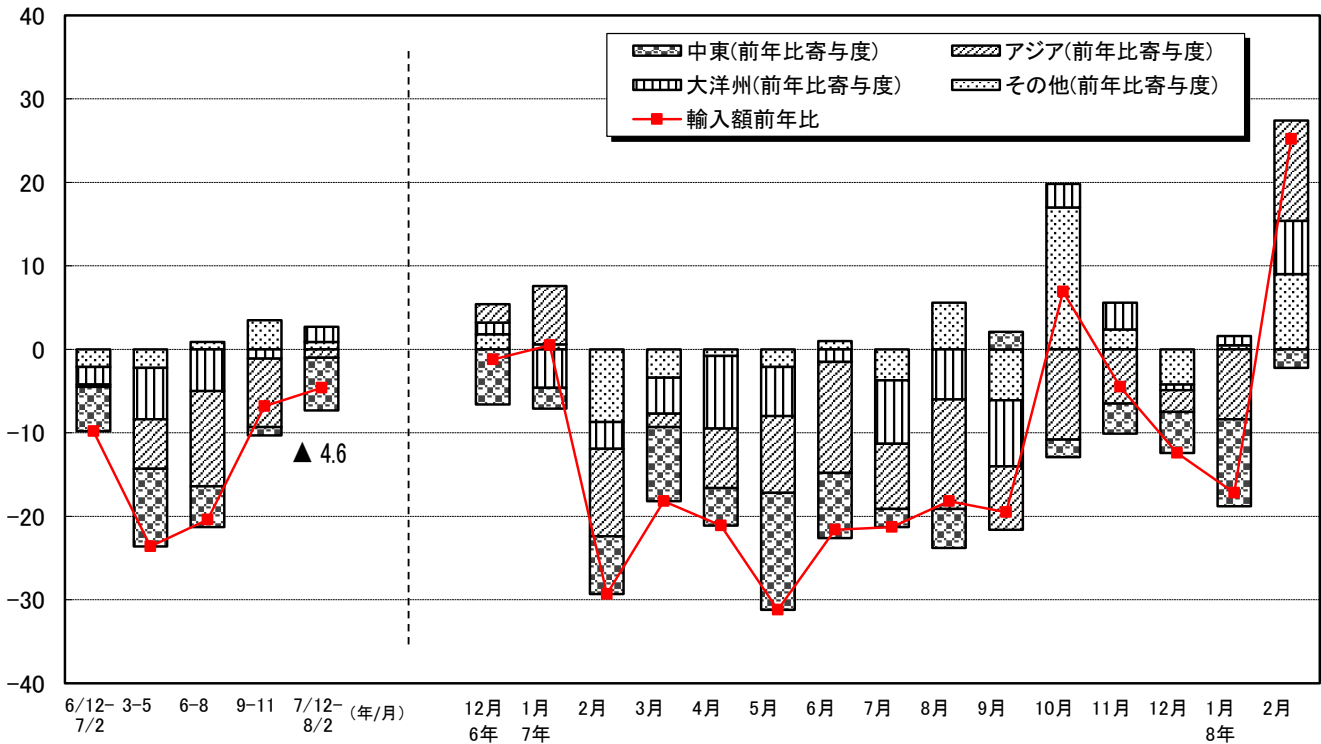


(資料出所: 神戸税関、門司税関)

<参考>

輸入(円ベース)

(%)



(資料出所: 神戸税関、門司税関)